

令和6年度 第1回立科町総合教育会議録

日 時 令和6年12月24日（火曜日）午後3時～午後3時55分

場 所 立科町役場 大会議室

参集委員	立科町長	両角 正芳
	立科町教育長	塩澤 勝巳
	教育長職務代理	飯島 正茂
	教育委員	池田 広
	教育委員	遠山 貴美枝
	教育委員	今井 愛子

事務局 今井総務課長 市川財政係長 羽場教育次長、上原児童館係長
伊藤社会教育人権政策係長 山浦学校教育係長

欠席 山口保育園長

傍聴者 1名

協議事項

- (1) 少子化に伴う学校運営について
- (2) その他

羽場次長 ただいまから、令和6年度第1回立科町総合教育会議を始めさせていただきます。それでは始めに、両角町長から挨拶をお願いいたします。

両角町長 皆さん改めましてこんにちは。

今年も余すところ僅かとなり大変お忙しい中、令和6年度第1回立科町総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

日頃より、町の行政に、とりわけ教育行政にお力添えを賜り、感謝申し上げる次第でございます。

さて、平成27年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴いまして、立科町でも教育大綱が定められたところでございます。

この大綱は、皆さんご存じのとおり町民の意向を教育行政により反映させるため、町長と教育員会とで構成する総合教育会議で協議し、策定することになっているわけでございます。

毎年開催され、その都度それぞれの課題について、ご協議をいただいているところでございます。本日もご意見をいただきながら、ご審議いただき、本日の会議が実りのあるものになりますことを期待申し上げ、開催に当たりましてのご挨拶にかえさせていただきます。

本日は大変ご苦勞様でございます。

羽場次長

両角町長ありがとうございました。

それでは、協議事項に入りたいと思います。本日、今井総務課長と市川財政係長にご出席をいただいております。

それでは、両角町長の進行でお願いいたします。

両角町長

それでは、早速、協議事項に移らせていただきます。

(1) 少子化に伴う学校運営について、説明をお願いいたします。

塩澤教育長

私の方から説明をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

まず、児童生徒数の推移、学級数の推移について状況を説明します。学級数ですが、令和6年度は1年生、3年生、5年生が町の30人規模学級に該当していません。従ってこの3学年には町が独自で教員を雇用し2学級にしています。令和7年度は1年生が42人で国基準の2学級、2年生はそのまま町基準の2学級、3年生はそのまま国基準の2学級、4年生は31人以下になってしまう予定のため、国基準の1学級編成になります。5年生はそのまま国基準の2学級、6年生はそのまま町基準の2学級編成になります。今年度に比べると1学級減ってしまうということになります。中学校は1年生は2学級、2年生と3年生は1学級になります。中学校は今年度と学級数は変わりません。また、0歳児から5歳児の児童数の推移ですが、出生数を基準としています。令和6年度20人、令和7年度24人でこんなに少ないのか、という事になりますが、小学校入学を契機に4歳、5歳で転入してくる子どもが結構あり、数は若干増えてくると思っています。町の人口増対策で色々な施策も行っていますので期待をしているところです。少子化に伴う学校運営についての説明は以上です。

学級数

※網掛けは町基準の2学級編成

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
R6	2	2	2	2	2	2	12	1	1	2	4
R7	2	2	2	1	2	2	11	2	1	1	4

※学級編成基準 (1学級の人数)

国の基準 小学校1学年から6学年35人 ・中学校 全学年40人

県の基準 小学校1学年から6学年35人 ・中学校 全学年35人

町の基準 小学校1学年から6学年30人 ・中学校 全学年35人

未就学児童数

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
R6	20	30	46	38	28	42	204
R7	24	20	30	46	38	28	186

※令和7年度の0歳児は令和6年度出生見込み数

両角町長

ただいまの説明についてご質問、ご意見はありますか。

池田委員

途中で何人増えるか、にもよると思うが、35人以下になる学年は加配、若しくは1学級ということになるのか。小学校の町独自の30人学級は1年生から6年生までという考え方でいいのか。4年生からは国基準になるのか。

塩澤教育長 4年生になったら1学級、という訳にはいかないのですがそのままですが、30人が限度だと思っている。あまり少人数だと人間関係を作るのが難しくなるので、大勢の中で切磋琢磨して関係を磨いて欲しい。

池田委員 県の基準が下がる見込みはないのか。

塩澤教育長 30人に下げて欲しいと要望してきたが、ご承知のとおり今教員が足りない、財政的な問題もあり進展していない。市町村教育委員会連絡協議会でも県に要望してもらっているが、良い返事はもらえていない。

塩澤教育長 少子化に伴う学校運営は以上として、付随して次の説明をさせていただきます。現在町では小学校と中学校に支援員を配置しています。6年度は小学校5名、中学校1名、来年度の予定は小学校6名、中学校2名を考えています。小学校は4年生が28名で2学級から1学級編成になること、外国籍児童の支援が必要なこと、中学校は支援学級在籍生徒数の増加と、教科担任制により常時専任の教諭が担当できず、生徒の心身状態が不安定な状況があり、この子どもたちが安心して学習に取り組めるような体制を整えたいと考えています。

教員の配当基準は学級数によって専科の配当基準が変わり、小学校ですと13学級を境に専科が1名増えます。現在小学校では理科の専科がないので、町費で理科専科を配置しています。中学校では英語1名、音楽1名、美術1名の町費講師を配置しています。来年度は小学校は現状どおり、中学校はどの教科の先生が来るかによって変わってきますので、確定はできませんが、足りない分は町費で見ざるを得ないと思っています。また、県の資料によると、長野県小中学校での発達障害の児童生徒の割合は全体の7.45%、これは明確な診断を受けている児童生徒で、専門機関の判定を受けていない児童生徒も当然通常学級にいます。立科町はこれより高い割合ですが、支援の必要な子どもがしっかりと学習ができる体制を整え、より良い教育環境を提供してあげたい、ということで人的な支援を町としてはしていかなければいけないと思っています。ご承知おきください。

両角町長 お聞きになりたいこと、ご意見はありますか。

池田委員 外国籍児童は日本語は分かるのか。

塩澤教育長 言葉としては分かるが、意味が理解できないので学習が進んでいかない。途中から転入してきた児童で両親も日本語は難しい。子どもは母国語も難しく両方が中途半端な状態。タブレットの活用や支援員の関わりでできるだけ早く日本語をマスターできるような支援をしていきたい。

遠山委員 この児童は普通学級にいますので、インクルーシブ的な支援はしてもらえるのか。例えば、国語の時間についてもらうことなどはできるか。

塩澤教育長 一番は国語だと思うので、そこは支援をしなければいけないと思っている。

池田委員 今後も外国籍の児童が増える可能性があるので体制作りを考えていく必要がある。

塩澤教育長 長野県に支援してくれる NPO 法人があるので相談をしてみたい。

両角町長 その他によろしいでしょうか。それでは、(1)少子化に伴う学校運営については、これで終了とさせていただきます。

次に(2)その他について何かありますか。

その他はないようですので、協議事項は以上とさせていただきます。事務局にお返しします。

羽場次長 両角町長進行ありがとうございました。また、今井総務課長、市川財政係長、出席ありがとうございました。

教育委員の皆様には、この前に開催しました定例教育委員会を含め、長時間に渡って大変貴重なご意見等いただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和6年度第1回立科町総合教育会議を閉じさせていただきます。お疲れ様でした。